



● 原 点

萩原電気株式会社 取締役社長 萩原 義昭

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、昨年のわが国経済は、3月を底に緩やかな回復が持続いたしました。しかしながら、これは景気刺激策による実力以上の嵩上げで、経済状態を判断するための基礎的条件は依然として下り坂にあり、巷には不況感が根強く残っているものと思われます。

今年については、回復トレンドが定着したとは判断できず、前半は再びマイナス成長に転ずることの覚悟も必要かと思えます。

このような厳しい状況の中、新年に当たり、名古屋市工業技術振興協会と名古屋都市産業振興公社の統合に対する私の思いを、当社の経営に対する日頃からの私の考えも込めて申し述べたいと思います。

統合に対しては、メリットの実現性の検証並びにデメリットの見える化と最小化の検討を更に綿密に行う必要があると思います。その際には、名古屋市工業技術振興協会設立の原点である「新技術の普及・促進や工業技術者の養成を始めとして、企業が真に必要なとする技術上の諸問題の解決や、その他の諸事業を広汎に遂行し、本市産業の振興を図る」という目的を最大限に達成させる目線での判断が肝要だと思います。

個別に言及しますと、「ものづくり」の原点は「ひとつづくり」にあると常々思っています。工業技術者の養成は技術の継承の点でも

重要であり、中小企業が生き抜くための喫緊の課題であります。中小企業の「ものづくり」「ひとつづくり」を磨くためには、自助は必要ですがそればかりではなく、更なる名古屋市工業研究所並びに名古屋市工業技術振興協会の支援が必要と感じています。

特に中小企業の研究開発に対する支援のために、名古屋市による名古屋市工業研究所へのより厚い支援を望む次第であります。

賛助員企業の成長があり、更にこの地域の産業の成長があってこそ納税と雇用が安定し、企業の社会的責任を果たし、持続可能な社会を構築する一助になると考えています。私は、信義誠実の原則の上に成り立つ従業員満足があってはじめて顧客満足があり、そして他のステークホルダー満足にも繋がり、企業が永遠に継続していく仮定が成り立つと考えています。これは、当社の原点である創業時に創業者が立てた二つの誓い「従業員を大切にし、常に新しいことに挑戦する」の一つであり、もう一つは経営理念である「創造と挑戦」の言葉に引き継がれています。

この原点を常に念頭におき、「当たり前のことを当たり前によりきる」心構えで当社の経営の舵取りを行っていく所存であります。

最後に、この一年の皆様方のご活躍を祈念し、私の巻頭言とさせていただきます。